

科目	都市防災学 (Advanced Disaster Reduction Engineering)		
担当教員	鳥居 宣之 准教授, 宇野 宏司 准教授		
対象学年等	都市工学専攻・1年・前期・選択・2単位		
学習・教育目標	A2(30%) A4-AS1(40%) A4-AS2(30%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	我が国は様々な自然的・社会的条件から災害が発生しやすい環境下に置かれている。特に、人口・資産が集積した都市においてひとたび大規模な災害が発生した場合には、人的にも物的にも甚大な被害が発生することが予測される。本講義では、都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-AS1】我が国における都市防災対策とその変遷について説明できる。		我が国における都市防災対策とその変遷について理解できているかをレポート課題ならびに中間試験で評価する。
2	【A2】自然災害の誘因となる大気現象（気象）とそのメカニズム・予測手法ならびに観測手法について説明できる。		自然災害の誘因となる大気現象（気象）とそのメカニズム・予測手法ならびに観測手法について理解できているかを中間試験で評価する。
3	【A4-AS2】都市で起こりうる災害のメカニズムについて説明できる。		都市で起こりうる災害のメカニズムについて理解できているかをレポート課題ならびに中間試験で評価する。
4	【A4-AS1】都市で起こりうる災害に対する防災・減災対策について説明できる。		都市で起こりうる災害に対する防災・減災対策について理解できているかをレポート課題ならびに中間試験ならびに定期試験で評価する。
5	【A4-AS1】減災対策の一手法であるハザードマップについて説明できるとともに、「我が家のハザードマップ」を作成できる。		減災対策の一手法であるハザードマップについて理解できているかを定期試験で評価する。また、作成したハザードマップに関するプレゼンテーションを行い、その発表内容を評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート25% プレゼンテーション5% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお、試験成績は2回の試験（中間試験・定期試験）の平均点とする。レポート課題は、提出期限を厳守すること（提出遅れは、原則、評価対象外）。		
テキスト	講義時に適宜配布する講義資料		
参考書	「防災工学」：石井一郎編（森北出版） 「地震・高潮・山崩れ－自然災害入門」：塩田修（新風舎） 「これからの防災・減災がわかる本」：河田恵昭（岩波ジュニア新書） 「暮らしと自然災害」：後藤 恵之輔ほか（電気書院） 「都市と防災」：目黒公郎，村尾修（放送大学教育振興会）		
関連科目	物理学，構造力学，水理学，土質力学，都市環境工学，防災工学		
履修上の注意事項	本科講義の防災工学を履修していることが望ましい。		

